北海道大学
大学院情報科学研究科

IST NEWS

No.13

APRIL 2008

第13号（平成20年4月）

新入生に贈る言葉
—努力、倫理観、そして夢—

研究科長　小柴正則

情報科学研究科に入学された皆さん、ご入学、誠におめでとうございます。本研究科の教職員を代表いたしまして、修士課程217名（内、留学生10名）、博士後期課程42名（内、留学生5名、社会人12名）、合計259名の皆さんのご入学を心から歓迎いたします。

北海道大学は、「いつでも、どこでも、何でも、誰でも」ネットワークにつながるユビキタスネット社会実現のための情報と通信に関する技術、いわゆるICT（Information and Communication Technology）の国際競争力の強化、さらには、安心・安全なユビキタスネット社会実現のための学問的基盤となる「情報科学技術」分野において世界水準の教育研究拠点としての役割を果たすために、2004年4月、「大学院情報科学研究科」を創設しました。学生定員は修士課程1学年177名、博士後期課程1学年42名で、「複合情報学専攻」、「コンピュータサイエンス専攻」、「情報エレクトロニクス専攻」、「生命人間情報科学専攻」、「メディアネットワーク専攻」、「システム情報科学専攻」の6専攻が設置されています。

情報科学研究科は、情報科学技術を通じて、これからの「知識基盤社会」の進展に貢献できる人材の育成に取り組むとともに、「国際的に魅力ある大学院づくり」にも積極的に取り組んでいます。その一環として、「世界最高水準の卓越した教育研究拠点形成と大学院教育の抜本的強化」を目的とした文部科学省所管の二つの大型プロジェクトを推進しています。一つは、「グローバルCOEプログラム」に採択された「知の創出を支える次世代IT基盤拠点」（2007～2011年度）というプロジェクトであり、いま一つは、「大学院教育改革支援プログラム」に採択された「多元的な資質伸長を促す学びの場の創成」（2007～2009年度）というプロジェクトです。これらのプロジェクトを車の両輪として、未来の情報科学技術の創出と深化を目指す情報科学研究科の新たな挑戦が始まっています。また、こうした一連の取組は、北海道大学が130年余りの歴史の中で培ってきた教育研究の四つの基本理念、すなわち、「フロンティア精神」、「国際性の涵養」、「全人教育」、「実学の重視」の21世紀における新たな実践にもなっています。

情報科学研究科に入学された皆さんには、こうした先進的な教育研究環境のもとで、思う存分、学び、そして、研究の醍醐味を味わっていただきたいと思います。いよいよ本格的な研究が始まる、これからの学生生活を実り多いものとするために、日々心がけていただきたいことを三つ、お話させていただきます。

一つは、「学ぶことに努力を惜しまない」ということです。研究というのは、これまでの大学における学習と違って、すぐに成果が得られるというものではありません。私は、いつも、「努力と忍耐なくして研究者たり得ない」と思っておりますが、私などが言うまでもなく、昔から、偉大な先人が名言を残しています。エジソンは、「天才とは99%の努力と1%のひらめきである」と言っていますし、アインシュタインは、「天才とは努力する凡人である」と言っています。また、トルストイは、「天才とは強烈な忍耐者である」と言っています。まさしく、「努

研究科長挨拶
（両副研究科長（右）と６専攻長（左））

力と忍耐は研究の資本」であると思います。

いま一つは、「高い倫理観の涵養に努める」ということです。人類共通の財産である科学技術の創成、継承、活用に直接関わる研究者や技術者には、専門家としてのモラルや高い倫理観が求められます。フランス語に、「ノブレス・オブリージュ（Noblesse Oblige）」という言葉があります。これは、「高い身分に伴う義務」のことで、「社会的に地位の高い者は、社会に対してそれだけ多くの義務を負わなければならない、また、高い倫理観を持って社会的責任を果たさなければならない」といった意味です。この「ノブレス・オブリージュ」という言葉を、北大の前身である札幌農学校の2期生であった新渡戸稲造先生は、著書「武士道」の中で、「武士道とは、士農工商という身分制度の下で、最も身分の高い武士が遵守すべき義務であり、まさしくノブレス・オブリージュそのものである」と述べています。これから、研究者、技術者としての道を歩んでいかれる皆さんには、この武士道やノブレス・オブリージュという言葉にこめられた高い倫理観の涵養に努めていただきたいと思います。

最後は、「夢を持つ」ということです。夢は人を育て、人は夢を育てます。私たちの大先輩、新渡戸稲造先生は、札幌農学校から東京大学の文学部に進学されたとき、入学試験の面接で英文学を学ぶ理由を問われて、「太平洋の橋になりたいから」と答えたそうです。120年以上も前に太平洋の橋たらんとする先生の「大いなる夢」には、本当に頭が下がる思いです。皆さんは、北海道大学の構内に新渡戸稲造先生の胸像があるのをご存知でしょうか。ポプラ並木のすぐ傍にありますので、是非訪ねてみてください。その台座には、英語で、「I want to be a bridge across the Pacific.」と彫りこまれています。こうした思いが生き続ける北海道大学のキャンパスで、自分自身の夢の実現に向けて、一日一日を大切にしながら自己研鑽に励んでください。

これからの新しい学生生活が、すべての新入生の皆さんにとって、充実した実り多いものとなることを願っております。このたびの北海道大学大学院情報科学研究科へのご入学、改めて心からお祝い申し上げます。

（本記事は、4月3日に挙行された情報科学研究科入学式での研究科長挨拶に基づくものです）

平成20年度新執行部体制

平成20年２月７日に情報科学研究科長（任期２年）の選考が行なわれ、小柴正則教授（メディアネットワーク専攻）の再任が決まりました。任期は平成20年４月１日から平成22年３月31日までです。

新総務研担当究副研究科長には前教育担当副研究科長の栗原正仁教授（複合情報学専攻）が、教育担当副研究科長には宮永喜一教授（メディアネットワーク専攻）がそれぞれ就任し、中期計画達成へ向けて新執行部体制がスタートしました。

委員会等の組織については、平成20年度より新たに、教育改善を目的としたFD（ファカルティ・デベロップメント）推進室が総務研究副研究科長を室長として設置されました。また、北大セミナー担当委員会が教育企画室に、広報担当ＷＧが広報・情報室に、それぞれ統合され、研究企画室、教育企画室、広報・情報室の各室は全６専攻からの室員により構成されるようになりました。

各委員会ならびに室の構成は、本号３～６ページに掲載しました。

第４回産業技術フォーラム

平成20年３月３日(月)～７日(金)の５日間に渡り、情報科学研究科A21、A22、A24講義室において、産業技術フォーラムが開催されました。今回のフォーラムには過去最多の92社が参加し、企業の特徴的な技術や技術開発・研究開発の内容などが紹介されました。

平成19年度ＦＤ研修会

平成20年３月26日(水)、情報科学研究科A21講義室において、情報科学研究科平成19年度FD（ファカルティ・デベロップメント）研修会「情報科学研究科における大学院教育の現状」が開催され、62名の教員が参加しました。教育企画室・工藤峰一教授を講師として、先に行なわれた「情報科学研究科の教育に関する学生アンケート」の結果が紹介されました。

齊藤准教授が文部科学大臣表彰

メディアネットワーク専攻の齊藤晋聖准教授が平成20年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞を受賞されました。この賞は、我が国の科学技術分野において、萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた40歳未満の若手研究者を対象とした表彰であり、齊藤准教授が行った「フォトニック結晶ファイバの高精度解析と最適設計の研究」の業績が評価されたものであります。

平成20年度情報科学研究科専攻長・各種委員会委員等一覧

●専攻長・副専攻長

専　攻　等	専攻長 （任期：１年）	副専攻長 （任期：１年）
複合情報学専攻	古　川　正　志	和　田　充　雄
コンピュータサイエンス専攻	田　中　　譲	工　藤　峰　一
情報エレクトロニクス専攻	福　井　孝　志	髙　橋　庸　夫
生命人間情報科学専攻	渡　邉　日出海	遠　藤　俊　徳
メディアネットワーク専攻	小　川　恭　孝	長谷山　美　紀
システム情報科学専攻	山　下　　裕	北　　裕　幸

●運営会議等

専　攻　等	運営会議 （任期なし）	専攻長会議 （職指定）	コース長会議 （職指定）
研究科長 （副工学部長）	小　柴　正　則	小　柴　正　則	小　柴　正　則
副研究科長	栗　原　正　仁 宮　永　喜　一	栗　原　正　仁 宮　永　喜　一	栗　原　正　仁 宮　永　喜　一
複合情報学専攻		古　川　正　志 和　田　充　雄	古　川　正　志 和　田　充　雄
コンピュータサイエンス専攻		田　中　　譲 工　藤　峰　一	田　中　　譲 工　藤　峰　一
情報エレクトロニクス専攻		福　井　孝　志 髙　橋　庸　夫	福　井　孝　志 髙　橋　庸　夫
生命人間情報科学専攻		渡　邉　日出海 遠　藤　俊　徳	渡　邉　日出海 遠　藤　俊　徳
メディアネットワーク専攻		小　川　恭　孝 長谷山　美　紀	小　川　恭　孝 長谷山　美　紀
システム情報科学専攻		山　下　　裕 北　　裕　幸	山　下　　裕 北　　裕　幸
１年クラス担任代表			鈴　木　恵　二
２年クラス担任代表			金　井　　理
（旧）情報工学科長			宮　腰　政　明
（旧）電子工学科長			三　島　瑛　人
（旧）システム工学科長			金　子　俊　一
事務部長	本　間　敏　史		

●常置委員会　　○委員長

専　攻　等	将来構想委員会 （役職指定）	教育研究評価委員会 （任期：２年）	学務委員会 （任期：２年）	学術委員会 （任期：２年）
研究科長	○小　柴　正　則			
副研究科長	栗　原　正　仁 宮　永　喜　一	○宮　永　喜　一 栗　原　正　仁	○宮　永　喜　一	○栗　原　正　仁
複合情報学専攻	古　川　正　志 和　田　充　雄	大　内　　東	鈴　木　恵　二	大　内　　東
コンピュータサイエンス専攻	田　中　　譲 工　藤　峰　一	原　口　　誠	宮　腰　政　明	有　村　博　紀
情報エレクトロニクス専攻	福　井　孝　志 髙　橋　庸　夫	三　島　瑛　人	本　久　順　一	福　井　孝　志
生命人間情報科学専攻	渡　邉　日出海 遠　藤　俊　徳	河　原　剛　一	遠　藤　俊　徳	清　水　孝　一
メディアネットワーク専攻	小　川　恭　孝 長谷山　美　紀	小　川　恭　孝	野　島　俊　雄	長谷山　美　紀
システム情報科学専攻	山　下　　裕 北　　裕　幸	本　間　利　久	小笠原　悟　司	金　子　俊　一
教育企画室		三　島　瑛　人	小笠原　悟　司	村　林　　俊
研究企画室		福　井　孝　志		金　子　俊　一
広報・情報室		五十嵐　　一		
就職企画室		髙　橋　庸　夫		
安全衛生管理室		植　村　哲　也		
事務部長	本　間　敏　史			
総務課長				松　井　哲　司
教務課長			小　玉　修　士	小　玉　修　士
事務室長	長　田　俊　一		長　田　俊　一	長　田　俊　一

●室　　○室長

専攻等	評価分析室	研究企画室 （任期：２年） （H 20.4.1 ～）	教育企画室 （任期：２年） （H 20.4.1 ～）	広報・情報室 （任期：２年） （H 19.4.1 ～２名） （H 20.4.1 ～４名）	就職企画室 （任期：１年） （H 19.10.1 ～）	ＦＤ推進室 （任期：２年） （H 20.4.1 ～）	安全衛生 管理室 （任期：２年） （H 19.4.1 ～１名） （H 20.4.1 ～１名）
研究科長	○小　柴　正　則						
副研究科長	栗　原　正　仁 宮　永　喜　一	○栗　原　正　仁	○宮　永　喜　一	○栗　原　正　仁		○栗　原　正　仁 宮　永　喜　一	
複合情報学専攻		山　内　康一郎	山　本　雅　人	井　上　純　一 （H 20.4.1~）	和　田　充　雄	川　村　秀　憲	
コンピュータサイエンス専攻	原　口　　誠	湊　　真　一	今　井　英　幸	吉　岡　真　治 （H 20.4.1~）	工　藤　峰　一	工　藤　峰　一	
情報エレクトロニクス専攻	雨　宮　好　仁	福　井　孝　志	三　島　瑛　人	岡　本　　淳 （H 19.4.1~）	○髙　橋　庸　夫	雨　宮　好　仁	植　村　哲　也 (H20.4.1 ～)
生命人間情報科学専攻		岡　嶋　孝　治	村　林　　俊	小　柳　香奈子 （H 20.4.1~）	遠　藤　俊　徳	峯　田　克　彦	髙　橋　　誠 （H 19.4.1~）
メディアネットワーク専攻		伊　藤　敏　彦	坂　本　雄　児	齊　藤　晋　聖 （H 20.4.1~）	長谷山　美　紀	小　川　恭　孝	
システム情報科学専攻		金　子　俊　一	小笠原　悟　司	五十嵐　　一 （H 19.4.1~）	北　　裕　幸	小野里　雅　彦	
事務部長	本　間　敏　史						
教務課長			小　玉　修　士				
事務室長		長　田　俊　一		長　田　俊　一	長　田　俊　一	長　田　俊　一	

●工学部委員会委員情報エレクトロニクス学科

所　　属	コース長 （任期：1年）	教務委員会 （任期：1年）	学生委員会 （任期：1年）	入試委員会 （任期：1年）	教育評価委員会 （任期：1年）
副工学部長	小　柴　正　則				小　柴　正　則
全学教務委員会	宮　永　喜　一	宮　永　喜　一	宮　永　喜　一	宮　永　喜　一	宮　永　喜　一
情報工学コース	古　川　正　志	鈴　木　恵　二	鈴　木　恵　二	古　川　正　志	鈴　木　恵　二
コンピュータサイエンスコース	田　中　　譲	中　村　篤　祥	工　藤　峰　一	田　中　　譲	佐　藤　義　治
電子情報コース	福　井　孝　志	末　岡　和　久	末　岡　和　久	福　井　孝　志	髙　橋　庸　夫
生体情報コース	渡　邉　日出海	岡　嶋　孝　治	村　林　　俊	髙　橋　　誠	山　本　克　之
メディアネットワークコース	小　川　恭　孝	野　島　俊　雄	坂　本　雄　児	小　川　恭　孝	宮　永　喜　一
システム情報コース	山　下　　裕	金　井　　理	北　　裕　幸	山　下　　裕	小野里　雅　彦

●工学部　学科長・副学科長

学　　科	学科長 （任期：1年）	副学科長 （任期：1年）
情報エレクトロニクス学科	渡　邉　日出海	長谷山　美　紀

●工学部将来構想委員会委員

学科長 （任期：1年）	渡　邉　日出海

●工学研究科（旧）専攻長・副専攻長

旧専攻	専攻長 （任期：1年）	副専攻長 （任期：1年）
システム情報工学専攻	古　川　正　志	栗　原　正　仁
電子情報工学専攻	小　川　恭　孝	雨　宮　好　仁

●工学部（旧）学科長・副学科長

旧学科	学科長 （任期：1年）	副学科長 （任期：1年）
情報工学科長	宮　腰　政　明	古　川　正　志
電子工学科長	三　島　瑛　人	宮　永　喜　一
システム工学科長	金　子　俊　一	五十嵐　　一

ＧＣＯＥ主催の国際シンポジウム開催

グローバルCOEプログラム「知の創出を支える次世代IT基盤拠点」（拠点リーダー：有村博紀）の発足記念として、同GCOEが主催する国際シンポジウム「GCOE－NGIT2008（知の創出を支える次世代IT）」が、2008年1月22日、23日の2日間、学術交流会館において開催されました。

当日は、海外からの招待講演者3名による量子計算，無線通信，バイオインフォマティックスに関する講演を含む７件の特別講演、情報科学研究科、量子集積エレクトロニクス研究センター及び電子科学研究所の研究者による18件の講演と、ＰＤ、ＲＡの若手研究者による45件のポスターセッションが行われました。本プログラムでは、異分野間の協力や若手研究者の育成を大きな柱として考えており、ポスターセッションでは、招待講演者や外部アドバイザーを含む参加者との間で、英語による研究紹介と質疑応答が行われました。

平成20年度大学院入学者数

平成20年度４月の情報科学研究科専攻別入学者数は下表のとおりです。

平成20年度専攻別入学者数

専　攻	定員	入学者数
複合情報学	24	32　［1］
	4	8　［1］ ④
コンピュータサイエンス	24	32　［6］
	8	6　［1］
情報エレクトロニクス	39	44　［1］
	8	13　［1］
生命人間情報科学	33	36　［1］
	6	1　①
メディアネットワーク	30	39　［1］
	8	7　［1］ ④
システム情報科学	27	34
	8	7　［1］ ③
計	177	217　［10］
	42	42　［5］ ⑫

・上段：修士課程、下段：博士後期課程
・［ ］：留学生（内数）
・丸囲み数字：社会人特別選抜（内数）

平成20年度科学研究費補助金採択状況

情報科学研究科からの新規申請91件のうち、４月22日現在25件について採択内定が通知され、継続分44件と合わせて計69件が採択の見込みとなりました。教員の転入・転出などに伴う増減を反映させた種目別の採択件数ならびに交付総額など、詳細は次号でお伝えします。

情報科学研究科ホームページ

研究科TOP＞ニュース
http://www.ist.hokudai.ac.jp/index_jp.php

- ○ 平成20年度博士後期課程社会人特別選抜（10月入学）学生募集要項を掲載
- ○ 平成21年度博士後期課程学生募集要項を掲載
- ○ 平成21年度修士課程学生募集要項を掲載
- ○ 情報科学技術の発展と，新しい科学技術の創出を目指して　情報科学研究科長 小柴 正則
- ○ 新入生を迎えて　情報科学研究科長 小柴 正則
- ○ ネットジャーナル を更新
- ○ 大学院教育改革支援プログラム「私たちがめざすもの 」
- ○ グローバルＣＯＥプログラム「知の創出を支える次世代IT基盤拠点」，国際シンポジウム「GCOE-NGIT2008（知の創出を支える次世代IT）」開催
- ○ IST NEWS第12号掲載

広報ホームページ

研究科TOP＞広報＞工学研究科・情報科学研究科・工学部広報＞ニュース
http://www.eng.hokudai.ac.jp/news/publication/news/

- ● 平成19年度 各室・各委員会報告
- ● 北海道大学大学院工学研究科工学系技術センターの設置
- ● 工学研究科，大韓民国東義大学校工科大学と部局間交流協定を締結
- ● 広報特集号 平成20年3月
  http://www.eng.hokudai.ac.jp/news/publication/news/?file=pn07_034

【人事異動】

［研究科長・副研究科長］

（任期）平成20年4月1日～平成22年3月31日	
小柴　正則	研究科長
栗原　正仁	副研究科長（総務・研究担当）
宮永　喜一	副研究科長（教育担当）

［教授］

（定年）平成20年3月31日	
酒井　洋輔	情報エレクトロニクス専攻 集積システム講座 （北海道大学キャリアセンター長へ）
（採用）平成20年3月16日	
鈴木　恵二	複合情報学専攻 複雑系工学講座 （公立はこだて未来大学から）

［准教授］

（採用）平成20年4月1日	
竹本　真紹	システム情報科学専攻 システム融合情報学講座 （武蔵工業大学から）

［助教］

（辞職）平成20年3月31日	
石村　康生	複合情報学専攻 複雑系工学講座 （（独）宇宙航空研究開発機構・准教授へ）
（辞職）平成20年3月31日	
廣瀬　哲也	情報エレクトロニクス専攻 集積システム講座 （神戸大学・講師へ）
（辞職）平成20年3月31日	
須田　善行	情報エレクトロニクス専攻 集積システム講座 （豊橋技術科学大学・准教授へ）

［事務職員］

（定年）平成20年3月31日	
山本　　進	経理課　情報科学研究科事務室 会計担当　係長
（転出）平成20年4月1日	
佐々木晃裕	経理課　情報科学研究科事務室会計 担当　主任　（苫小牧研究林へ）
（昇任）平成20年4月1日	
岩佐　美穂	経理課　情報科学研究科事務室会計 担当　係長　（工学部経理課から）
（配置換）平成20年4月1日	
西　　徹	経理課　情報科学研究科事務室会計 担当　主任　（薬学部から）

［技術職員］

（定年）平成20年3月31日	
石川　榮一	技術部

［嘱託職員］

（採用）平成20年4月1日	
多田俊一郎	生体物理工学研究室
阿部　正雄	システム複合情報学研究室
齊川　勝男	言語メディア学研究室
奥村　　豊	システム制御情報学研究室

【受賞】

2008年1月28日	森　　直樹
情報エレクトロニクス専攻 修士課程2年（当時）	
2007 IEEE Sapporo Section Student Member Best Presentation Award「モンテカルロ法による CF_4 RFプラズマの構造解析」	
2008年3月14日	齊藤　晋聖
メディアネットワーク専攻 准教授	
平成20年度 文部科学大臣表彰 若手科学者賞「フォトニック結晶ファイバの高精度解析と最適設計の研究」	
2008年3月17日	大渡 裕介[1]、小川 恭孝[2]、西村 寿彦[3]、大鐘 武雄[4]
1）メディアネットワーク専攻　修士課程2年（当時）、2）同専攻　教授、3）同専攻　助教、4）同専攻　准教授	
第23回電気通信普及財団賞（テレコムシステム技術賞）技術賞「MIMO-OFDM 固有ビーム空間分割多重方式におけるチャネル情報フィードバック量の削減手法」	
2008年3月19日	Haruhiko Sato[1]、Masahito Kurihara[2]
1）複合情報学専攻 博士課程1年（当時）、2）同専攻　教授	
The Certificate of Merit (Student) for The 2008 IAENG International Conference on Computer Science「MKBOOL: A Multi-Completion System for Boolean Constrained Reduction Orders」	

新教員紹介

1．最終学歴および学位、2．前職、3．専門分野

鈴木　恵二　教　授

複合情報学専攻複雑系工学講座

1.平成5年北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了、博士（工学）、

2.公立はこだて未来大学　教授、

3.人工知能、ロボティクス、観光情報

竹本　真紹　准教授

システム情報科学専攻システム融合情報学講座

1.平成11年東京理科大学大学院理工学研究科電気工学専攻修士課程修了、博士（工学）、2.武蔵工業大学工学部機械システム工学科講師、3.電気機器、パワーエレクトロニクス、電動機制御

IST NEWS No.13　平成20年5月15日発行
発行：北海道大学大学院情報科学研究科　広報・情報室
（編集担当：菅原広剛、吉岡真治）